

人間植物関係学特論演習（一）（2単位）

担当者氏名 宮本 太・御影雅幸・三井裕樹

◆学習・教育目標

この地球に人類の祖先が誕生して以来、人類は地球を取り巻く環境との関わりを深め、常に親密な関係にあった。しかし、人類は文明という道具を手にした瞬間から、あたかも自然環境を自由に扱えるがごとく振舞ってきた。そのため地球環境は、様々な形で痛み、病んでいる状況にある。このような状況にある地球環境に対し、我々に何が出来るのか、また何をすべきなのかを考え、実行していく必要がある。本特論演習では人の利用により保たれてきた半自然環境を課題対象にし、どのような利用・保全が永続的な環境保全につながるのかを考え、実践する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

| | | | |
|---------|-------|--------|---------|
| 自然環境 | 生物多様性 | 自然と文化 | 野生生物 |
| 環境保全・保護 | 植物共生 | 地域資源植物 | 二次的自然環境 |

◆授業の進行等について

| | テーマ | 内容 | 授業のねらいまたは準備しておく事項 |
|----|------------|-----------------------|---|
| 1 | 自然環境と人間（1） | 世界の気候と植生 | 軽井沢における半自然草原を対象にし、どのような保全が生物多様性保全につながるかを考え、実践する。 失われた環境の復元にはどのような配慮や作業が必要なのかを計画、実践する。 実際に半自然草原の管理を体験する。 |
| 2 | 自然環境と人間（2） | 暮らしと景観 | |
| 3 | 植物共生とは（1） | 暮らしの場を追われる生き物たち | |
| 4 | 植物共生とは（2） | 植物との共存と有効利用 | |
| 5 | 植物共生とは（3） | 人と生き物の未来 | |
| 6 | 生物多様性（1） | 地球上の生命と多様性 | |
| 7 | 生物多様性（2） | 命と暮らしを支える生物多様性 | |
| 8 | 生物多様性（3） | 人と生き物たちと共存できるのか？ | |
| 9 | 資源植物（1） | 薬用資源植物（1） 里山の薬用植物 | |
| 10 | 資源植物（2） | 薬用資源植物（2） 森林浴とバイオセラピー | |
| 11 | 野生生物（1） | 野生生物保全の意義 | |
| 12 | 野生生物（2） | 野生植物と自然環境 | |
| 13 | 環境保護・保全（1） | 野生生物保全と里地・里山 | |
| 14 | 環境保護・保全（2） | 保護・保全から新しい共存・共栄へ | |
| 15 | 環境保護・保全（3） | 人の快適と地球環境 | |

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、必要に応じて支持する。

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社） /

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートおよび演習参加状況から評価

◆その他受講上の注意事項

尾瀬ヶ原、山梨県勝沼、軽井沢において実践的な演習をおこなう。